

—編集後記—

現体制から新たに編集委員となりました。まだ、委員らしき業務を何もしておらず、この編集後記が実質的に初仕事です。

ここで若干、自己紹介をさせていただきます。私は2000年に筑波大学で学位を取得後、東京大学で3年、ジュネーブ大学で2年ポストドクをしました。その後、教員として岩手大学で6年間お世話になり、筑波大学に戻って7年目が過ぎようとしています。教員になってからの13年間、学生さんにも恵まれて、細々とはありますが、研究を続けられています。現在まで、粘土・コロイドの帯電と凝集に関する研究を主な課題にしており、素朴な疑問や仮説を頼りに、自分の興味のままにテーマ設定しています。ずっと自由に研究をさせて頂いて、環境に恵まれていて、ありがたいことだと感謝しております。コロイドや凝集の研究は土壌物理の主流ではないのかもしれませんが、教科書には凝集や電気二重層といった用語が出てきますし、コロイド科学の重要な発見には土壌にまつわる話が意外にあったりします。そんなコロイドの話題もいずれ提供できればいいな、と考えています。

編集後記の担当にあたり土壌の物理性を読み返すと、「土粒子」などのように、自分が何者なのか思いのたけをぶちまけている記事（表現大丈夫ですよ）に面白味

を感じます。当たり前ですが、研究が研究者という人間の営みによるものだということがわかります。共感したり、ハッとしたり、ちょっと違うよな、と思ったりと、自分を見つめ直す良い機会になります。最近では藤井克己先生の巻頭言が印象的でした。直接、改めてお話を伺いたかったのですが、こんなにも早くに亡くなられるとは予想していませんでした。ご冥福をお祈りするとともに、不肖な後輩教員、部下としてご迷惑をかけ通しだったと反省することしきりです。

さて、委員となり、土壌の物理性を毎号発刊するために必要な原稿を集めるのに大変苦労されていることを知りました。執筆頂いた著者のみなさまには感謝申し上げます。昨今の競争環境下、学内の諸々の順位付けなどの様子を見ていても、土壌の物理性をオリジナルな学術論文の投稿先として選択することは難しいのかな、と感じています。これまでの委員のように魅力ある記事を集めるための良い仕掛けを考える必要があります。みなさん、是非、知恵をお貸しください。

最後になりますが、土壌物理学会会員のみなさまの今後の益々のご発展をお祈り申し上げます。

小林幹佳（編集委員）

土壌物理学会

事務局構成	会 長	石黒 宗秀	(北海道大学)	
	副 会 長	竹内 晴信	(北海道立総合研究機構)	
	庶務幹事	柏木 淳一	(北海道大学)	
	編集幹事	塚本 康貴	(北海道立総合研究機構)	
	会計幹事	倉持 寛太	(北海道大学)	
	会計監査	志賀 弘行	(北海道立総合研究機構)	
	編集委員会	委 員 長 委 員	横濱 充宏	(土木研究所寒地土木研究所)
			澤本 卓治	(酪農学園大学)
			飯山 一平	(宇都宮大学)
			岩田 幸良	(農業・食品産業技術総合研究機構)
北川 巖			(農業・食品産業技術総合研究機構)	
小林 幹佳			(筑波大学)	
三枝 俊哉			(酪農学園大学)	
清水 真理子			(土木研究所寒地土木研究所)	
鈴木 伸治			(東京農業大学)	
中川 進平			(秋田県農業試験場)	
中野 恵子			(農業・食品産業技術総合研究機構)	
中村 和正	(土木研究所寒地土木研究所)			
丹羽 勝久	((株)ズコーシャ)			
笛木 伸彦	(北海道立総合研究機構)			
渡辺 晋生	(三重大学)			